

研究所調査記録

正定寺（浄土真宗本願寺派） 奈良県宇陀市

二〇一七年九月六日（青木・蒲池・安藤・中川・藤井・大艸）

〔法宝物〕

1 源空・親鸞連座像 一幅

木箱入軸装・絹本着色 【本紙】縦九〇・〇cm×横三八・一cm

【讚】縦一八・五cm×横三二・二cm 【左札銘】縦七・六cm×横

二・三cm 【右札銘】縦七・三cm×横二・三cm 【源空像】総高

二〇・八cm×幅一九・六cm 【親鸞像】総高二一・〇cm×幅一九・

六cm

左札銘「黒谷源空聖人」、右札銘「親鸞上人」

木箱蓋上書「大和国正定寺」

*『存覚袖日記』の記述により、応安三年（一三七〇）頃のもの
と思われる。

*讚は解読不能、裏に明治四十三年（一九一〇）頃の墨書あり。

研究所調査記録

2 源空・親鸞連座像（元禄模写本） 一幅

木箱入軸装・絹本着色 【本紙】縦九〇・四cm×横四一・一cm

【讚】縦一九・四cm×横三五・三cm 【源空像】総高二〇・八cm

×幅二〇・五cm 【親鸞像】総高二一・五cm×幅二〇・六cm

【裏書】縦四〇・一cm×横二七・四cm

裏書

「円光大師并祖師鸞聖人之尊像同讚文者

常楽台主存覚上人之筆痕而和陽山辺

郡向瀨邑正定寺為什物矣今茲元禄十陸癸

未晚夏中浣住持順貞来于雍州令画工吉

川氏了充斎膳写此 霊像焉空鸞二師之

尊号并讚文予請筆之予雖不敏為存師之

後胤則豈可違拒乎遂□□需添述事之

顛末聊書于幅背 存師十三葉常楽教寺後孫々□

八七

法師権僧都寂恵（法）□

（花押）

木箱蓋上書「常楽寺門流大和国山辺郡向渕村／正定寺／願主円了

／取次／日野沢依

* 讚は解読不能、左右札銘の剥がし取り痕あり。

* 元禄十六年（一七〇三）。

3 源空・親鸞連座像（昭和模写本） 一幅

木箱入軸装・絹本着色 【本紙】縦九〇・四 cm×横四二・一 cm

【讚】縦一八・〇 cm×横三一・八 cm 【左札銘】縦七・二 cm×横

二・七 cm 【右札銘】縦七・二 cm×横二・五 cm 【源空像】総高

二二・三 cm×幅一九・五 cm 【親鸞像】総高二二・〇 cm×幅二〇・

一 cm

讚（右）「経曰／如来以無蓋大悲矜哀三界／所以出興於世光闡道

教／欲拯群萌恵以真実之利／瑞」、讚（中）「源空聖人曰／当知

生死之家以疑所止／涅槃之城以信為能入／瑞」、讚（左）「親鸞

聖人曰／觀彼如来本願力凡愚遇空過／者一心専念速満足真実大

宝／海／瑞」

左札銘「源空聖人」、右札銘「親鸞聖人」

裏書「貞和三_三丁_四年_七存覚上人五十八才冬（後略）」

木箱蓋上書「昭和 二尊連座御画像」、木箱蓋裏書「本絵像は南

都仏画師能美涌泉画師／讚文は常楽台主今小路覚瑞師ご染筆

隨喜の余り記す（朱印「善／城」）／昭和四十三年、開基六百二

十年 本堂再建二百年／本堂大修理六十年 記念に謹製 男講

／尼講寄進／後日のため、五十三年一月 記念／釈善城才⁵⁸」

木箱身裏書「大和国宇陀郡室生村向渕 龍護山正定寺」

* 裏に、昭和五十三年一月三日付墨書（右記裏書）とともに、昭

和五十六年一月六日付の追記、及び今小路覚瑞氏の計報新聞記

事貼付あり。

4 六字名号 一幅

木箱入軸装・絹本繡字

木箱蓋貼紙「吉光尼公毛のお名号」

* もともと別の木箱に右の貼紙が付されて納められている。

5 七高僧影像 一幅

軸装・絹本着色 【本紙】縦一〇三・八 cm×横五〇・三 cm 【裏

書（左）】縦一九・四 cm×横七・五 cm 【裏書（右）】縦二〇・九

cm×横一三・九 cm

札銘「龍樹菩薩」「天親菩薩」「曇鸞大師」「道綽禪師」「善導大師」

「源信和尚」「円光大師」

裏書（左）「三朝高僧凶像」、裏書（右）「本願寺积本如（花押）／

文政四辛巳年」

* もと歌嘆庵にあったもの。

* 文政四年（一八二一）。

6 聖徳太子影像 一幅

軸装・絹本着色 【本紙】縦一〇三・八cm×横四七・七cm 【裏書】縦三〇・三cm×横二七・九cm

讚「吾為利生出彼／衡山入此日域／降伏守屋之邪見／終顯仏法之

威徳」

裏書

「本願寺積本如（花押）」

文政四辛巳年六月十二

大和国宇陀郡

調子邑歌□□

＊もと歌嘆庵にあったもの。

＊文政四年（一八二二）六月十二日。

＊裏書破損あり。

7 親鸞絵伝 四幅

木箱入軸装・絹本着色 【本紙（第一幅）】縦一三四・〇cm×横

七六・八cm 【裏書（第一幅）】縦七四・六cm×横二七・一cm

裏書（第一～三幅）

「 寂如（花押） 願主釈」

大谷本願寺親鸞聖人之縁起

木箱蓋上書「御絵伝／享保二年丁酉三月十三日／常楽台門徒和州山

3 正定寺縁起 一冊

辺郡向澗村／正定寺／取次外記」

＊享保二年（一七一七）三月十三日。

＊木箱に「二百七十三年前に／下附された親鸞聖人の／四幅絵伝」

と墨書された紙札あり。

＊第四幅の裏書は、右記の他幅裏書の第二・第三行と同文。

〔文書〕

1 文政四巳歳改 御宝物虫干開帳諸事覚帳 一点

仮綴・紙本墨書 縦三〇・〇cm×横二一・二cm

外題「文政四巳歳改／御宝物／虫干開帳諸事覚帳／山辺郡向澗邑

／龍護山／正定寺／門徒中」

奥書「後の世のしるしと／なれや筆の跡／法の言の葉／かたみと

もなれ／幸田求馬（花押）／行年六拾八翁／秃筆発之」

＊文政四年（一八二二）四月。

＊全一三丁。

2 名残之御名号略縁起 一点

続紙・紙本墨書 縦三二・三cm×横五九・五cm

内題「名残之御名号略縁起」

＊文書1の虫干帳第一丁に挟み込んであったもの。

＊対応する名号は現存せず。

3 正定寺縁起 一冊

冊子装・紙本印刷 縦一八・八cm×横一三・三cm
外題・内題「正定寺縁起」

*大正十年（一九二一）四月十八日、正定寺発行。

*表紙右上に朱印「御遠忌／大法会／紀念」、右下に朱印「正定寺印」、左上に朱印「存覚上人／御旧跡／大和国／正定寺」、
外題左に朱書「永久保存」あり。

4 御堂再建募縁 一点

仮綴・紙本木版 縦二三・〇cm×横一六・五cm

外題「和州山辺郡向澗村御堂再建募縁／龍護山正定寺」

*外題左に「三百四十四番」の墨書あり。

*明和四年（一七六七）八月十八日。

*全五丁。

*裏表紙に「馬場垣内／新谷貞次郎氏ニテ発見セラタルヲ／寄附セラレタリ（他ニ数葉／アリ）／紀元二千五百九十九年／于時昭和十四年八月」のペン書きあり。

本善寺（浄土真宗本願寺派） 奈良県吉野郡吉野町

二〇一七年九月七日（青木・蒲池・安藤・中川・藤井・大艸

〔法宝物〕

1 親鸞絵伝 二幅

木箱入軸装・絹本着色 【第一幅】縦一六八・七cm×横八八・〇

cm 【第二幅】縦一六八・二cm×横八八・〇cm

*裏書は別幅（法宝物2参照）。

2 親鸞絵伝裏書 二幅

木箱入軸装・紙本墨書

①縦八七・七cm×横四七・八cm

「 积実如（花押）

永正十一年^{甲戌}六月七日書之

大和国吉野郡宮上部郷

大谷本願寺親鸞聖人伝絵

飯貝誓寺常住物也^{本善寺}

願主积実玄

②縦八七・六cm×横四七・六cm

※四行目まで①と同文だが、五行目が「飯貝本誓寺常住物也」、

六行目が「願主积^{（墨押）}／実玄」となっている。

裏書（①②）「御絵伝御裏 実如上人／二幅之内」

木箱蓋上書「御絵伝御裏 実如 二幅」

*永正十一年（一五一四）六月七日。

*法宝物1の裏書（①②のいずれが第一幅のものかは不明）。

3 方便法身尊号裏書 一幅

木箱入卷子装・紙本墨書 【全本紙】縦四九・八cm×横一四・五

cm 【原本紙】縦三六・八cm×横一四・五cm

「 大谷本願寺積蓮如(花押)

寛正二年^{辛巳}二月廿五日

方便法身尊号

外題「六字尊号御裏／中祖師蓮如御筆」

木箱蓋上書「曩祖御筆古キ方／六字尊号御裏 蓮如上人御筆／高

祖尊骨添翰 願得寺実悟」、木箱内蓋上書「曩祖御筆／六字尊

号御裏 蓮如上人御筆／高祖尊骨添翰 願得寺実悟」

*寛正二年(一四六一)二月二十五日。

*文書³と同箱。

〔文書〕

1 皆成院実孝書 一卷

木箱入卷子装・紙本墨書 縦二七・一 cm×横一六五・九 cm

差出「いひ」、宛名「みなみ向へ」

外題「皆成院実孝書」

木箱蓋貼紙「木仏御裏 実如上人／消息 実孝」

*天文年間(一五三二～五四)頃か。

*文書²と同箱。

2 皆成院実孝消息 一卷三通

木箱入卷子装・紙本墨書

差出(第一通)「飯／実孝」、宛名(第一通)「左衛門尉殿」

外題「□□□世／皆成院実□□」

*第一通は卯月四日付、第二通は^卯月十七日付、第三通は五月一

日付、いずれも無年紀。

*三通ともに、折紙を切断して上下に貼り合わせたものか。

*文書¹と同箱。

3 願得寺実悟高祖尊骨添翰 一卷

木箱入卷子装・紙本墨書 縦一六・三 cm×横四二・四 cm

差出「願得寺／実悟(花押)」

外題「祖師尊骨添翰／願得寺実悟」

*天正九年(一五八一)三月九日。

*法宝物³と同箱。本文書の写し一紙あり。

4 御分骨御証文 一幅

木箱入軸装・紙本墨書 縦三一・五 cm×横四七・五 cm

差出「実如(花押)」、宛名「本善寺殿」

木箱蓋上書「御分骨御証文」

*三月二十八日付、無年紀。

*本文書の写し一紙あり。

浄称寺（浄土真宗本願寺派） 奈良県五條市大塔町

二〇一七年九月七日（青木・蒲池・安藤・中川・藤井・大艸）

1 高僧連座像（十祖像） 一幅

軸装・絹本着色 縦一二三・八cm×横五二・五cm

札銘「黒谷源空聖人」「本願寺親鸞聖人」「釈如信法師」「釈覚如」

「釈乘専」「釈善入」「釈浄善」「釈真浄」「釈円智」「釈浄光」

* 南北朝・室町期。

* 本紀要冒頭口絵参照。

2 浄称寺伝記 一卷

木箱入卷子装・紙本墨書 縦三三・五cm

奥書「右一卷浄称寺伝記／依住持浄恵所望本書／之通書写之与者

也／享和三^癸歳仲夏／参議左大弁宰相藤原均光」

木箱蓋上書「縁起巻卷 参議左大弁筆／折紙附」

* 享和三年（一八〇三）六月三日。

* 木箱に左の包紙入折紙あり。

包紙上書「柳原殿内／飯干内膳」、折紙「此度願二付其寺縁／

起巻卷／左大弁宰相殿以真筆／被写之被令寄附候也／柳原殿

内／飯干内膳／重永（花押）／享和三年六月三日／浄称寺殿」